



# しおがまの 活気・元気

走る楽しさを伝えていきたい  
～ホノルルマラソンへの挑戦～

きむら のりこ  
木村 紀子 さん

塩竈市在住  
塩竈市スポーツ推進委員  
塩竈ファミリーマラソンクラブ会長  
地域のマラソンのほか、東京、ベルリン、パリ、  
モンゴルなど国内外の数多くのマラソン大会に  
出場。



写真(上) ホノルルマラソンの完走証を手にする木村さん。数々の大会で表彰された盾が並びます。  
写真(左) ホノルルマラソンを笑顔で完走。

「マラソンを始めたきっかけはダイエットが目的でした」と、これまで出場したレースの記録を手に微笑むのは木村紀子さん。昨年12月8日に開催されたホノルルマラソンに出場した木村さんに、マラソンの魅力を伺いました。

木村さんとマラソンとの出会いは、36歳のときに知人に誘われて参加した松島ハーフマラソンでした。当初はトレーニングがわからず、雨の日は練習が無いことを喜んでいただけです。しかし、さまざまな大会に参加するうちに徐々に記録が伸び、走る魅力に引き込まれていったそうです。「朝晩のトレーニングが習慣になり、マラソンが好きになっていきました。特にレース終盤でランナーを一人、また一人と追い抜くことが快感でした」とマラソンの醍醐味を話します。

国内の多くの大会に出場する中で「いつかは海外のレースに出てみたい」と思いを抱くようになり、初めてホノルルマラソンに参加したのは1996年の大会で、今回は4回目の出場となりました。

ホノルルマラソンの難所は、ゴールまで残り5km地点からのアップダウンのある高級住宅街です。多くのランナーが苦しむ区間ですが、木村さんは「得意な区間で平気で走ることができました」と振り返ります。これは、普段から坂道が多い塩竈で練習を積んでいる効果だと話します。

今回のレース記録は7時間37分。前回出場したタイムから3分縮めることができました。この結果に木村さんは「走ることは楽しく、明るい気持ちになれます。後期高齢者になっても『やればできるんだ』と実感しました」と力強く話してくれました。

今後の目標について、「少しずつ国内のレースに参加し、ランナーたちと親睦を深めながら、多くの子どもたちに運動する楽しみを知ってもらおう活動をしていきたいです」と笑顔で答えてくれました。

塩竈ファミリーマラソンクラブ会員募集中  
問 (Eメール) [nk.5.kimu.kimu@gmail.com](mailto:nk.5.kimu.kimu@gmail.com)

シリーズ「しおがま文化財探訪」

しおがま文化財探訪 ③/3

最上屋勇治の「永代帳」(塩竈市)

表紙には中央に「永代帳」、左右に「天保4年正月吉日」と記され、裏表紙には「最上屋勇治」とあります。

最上屋は、江戸・明治時代にかけて本町にあった煙草屋で、明治期の町長菊地雄治の生家として知られ、本書の作者最上屋勇治はその父であったとみられています。

本文は、天保4年2月1日から「閏正月(天保12年)」までの9年間の176件の記事が書かれています。その内訳は、天候不順と天変地異(35件)、作況と諸物価(36件)、食糧事情と社会情勢(19件)、藩の対応(26件)、最上屋の飢饉対策(25件)、煙草商売(35件)となります。

天保飢饉下の塩竈のまちの様子を生々しく伝えてくれるほとんど唯一の史料としてきわめて貴重なものです。

(東北学院大学教授 齋藤善之)



「永代帳」の表紙

問 生涯学習課生涯学習係 ☎022(355)2885